

九

G-0037

0371

歐米局 第三課長 佐

朝保秘第一五五一號

昭和五年十一月二十五日

朝鮮總督府 警務局長

拓務省	朝鮮部長	殿
外務省	歐米局長	殿
内務省	警保局長	殿
神奈川縣	知事	殿

セール商會ノ清津港灣圖複寫ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ成鏡北道知事ヨリ左記ノ通受報シタルニ付御參考迄  
通報ス

記

米人經營セール商會清津支店ニ於テ數日前清津港灣圖入手ノ爲清津府

和昭五年十二月廿八日接受  
朝鮮總督府

朝鮮總督府

廳及同地土木局出張所商業會議所等ニ立廻リタル旨所轄清津署ニ於テ  
 開知探查シタルニ同商會横濱船舶部ヨリノ照會ニテ配船ノ参考上清津  
 築港完成後ノ港灣狀況調査ノ爲メ商業會議所ヨリ土木部調製ノ港灣圖  
 青寫眞ヲ借受ケ複寫セルモノニシテ該港灣圖ハ既ニ新聞紙上及掲示板  
 等ニ一般公示セルモノニシテ秘密ノモノニアラザルモ爲念

GT. 1. 2. 0. 2. 4

G-0037

0372

記

登錄  
支

分類 G1,2,0,4

秘

通商局  
郵便高第一七八九七號

昭和七年十二月十九日

麻 東 聯 警 務 局 長

拓務次官 長官 殿  
内務書記官 長官 殿  
外務書記官 長官 殿  
郵務局長 殿

雄基港灣擴張期成會

雄基港灣擴張期成會員ノ勳辭

會長 中 村 直 三 郎  
副會長 本 並 松 友  
外三名

第三  
類  
a  
昭和七年十二月廿日 接受

雄基港灣擴張期成會

G-0037

0373

右一行ハ雄基港擴築ニ關シ滿鐵本社訪問ノ爲去ル十四日來連市内大山  
湯澤車站ナルニ投宿セルカ副會長本並松友ノ語ル處ニ依レハ雄基港灣  
擴築期成會ハ十一月二十日十二月六日ノ三回ニ亙リ市民大會ヲ開催シ  
其都度要路各方面ニ決議文ヲ電送シ尙十二月二日ヨリ約十日間ニ亙ッ  
テ朝鮮總督府ニ對シ期成會員約十名ヲ派シ其ノ促進運動ヲ行ヒ略々諒  
解ヲ得タルヲ以テ總督府ヨリノ紹介狀ヲ持參シ滿鐵總裁副總裁各理事  
港灣關係者等ニ面會ヲ爲シ其諒解ヲ得ン爲來連セルモノニシテ北朝鮮  
ニ於ケル雄基港ノ存在ハ相當重要性ヲ持ツモノニシテ羅津清津ト共ニ  
北滿物資ノ吞吐港トシテ今後其機能ヲ期待サレ居ルモノナルカ現在ノ  
港灣ニテハ尙幾多ノ不備ナル點アリ其擴築ノ必要ヲ感セララルル處ニシ  
テ前内田總裁江口副總裁モ同港擴築ノ必要ヲ感シ略々諒解アリタルモ  
ノナルヲ以テ林總裁<sup>（對シテモ前總裁）</sup>ノ方針ヲ踏襲サルル様嘆願ノ筈ナリ而シテ一行ハ

十五日ヨリ滿鐵當事者ニ個人的面會ヲ行ヒタルカ大連ニ三四日間滞在  
ノ上赴新京全權府ヲ訪問武藤大使ノ諒解ヲ求メ滿洲國當事者トモ會見  
シ援助ヲ求メ議會開催前ニ上京ノ上政府要路ニ對シテモ擴築運動ヲ行  
フ豫定ナリ云々

以上

歐米局

通商局

西

91.2.0.4

亞細亞局

關機高外第三八五〇號

第三課

昭和八年六月二十六日

關高陸警務局長

昭和八年六月卅日 接受

拓務省  
拓務局長  
拓務次官  
拓務監督官  
拓務事務官  
拓務支隊長  
拓務支隊監督官  
拓務支隊事務官

官廳長官長官  
殿殿殿殿殿殿

人ノ見タル清津港

(滿鐵情報)

首題ノ件ニ關シ入手セル情報左記繪參考迄

G-0037

0375

記  
清 津 港

序 言

一九三二年ハ滿鮮連絡鐵道網ノ建設事業ニ一大飛躍ヲ示セル年ナリ、  
即チ敦化ヨリ和龍縣境ノ圖們江岸ニ至リ北鮮鐵道枝線ト連絡スル敦圖鐵  
道ハ目下工事中ニシテ本月八月ニハ滿鮮直通連絡幹線開通ノ豫定ニシテ  
他方日本ト大陸ヲ最短距離ニ於テ結フ北鮮海港問題モ終ニ解決ヲ見ルニ  
至レリ

一九三二年八月二十三日北鮮ニ於ケル出口ヲ羅津港トスルコトカ發表サ  
レ本年四月ヨリ同所ニ於テ大築工事カ開始セララルコトナリタルカ此  
ノ羅津港ハ東亞ニ於ケルニ大港トナル使命ヲ有スルモノニシテ目下ノ北  
鮮海港タル雄基及清津ノ二港ハ羅津港築港第一期工事完成後ハ之カ補助

港タル役割ヲ演スルニ至ルヘシ

右ノ如キ事情ニシテ茲三、四年間ハ雄基及清津ハ吉林、朝鮮線ノ出口ト  
シテ重大ナル意義ヲ有スヘク元來吉林朝鮮線ハ滿洲輸出入貨物ノ輸送カ  
其ノ使命ニシテ滿洲輸出入貨物ハ一ニ本鐵道ニ依リ輸送セラル、コト、  
ナルカ羅津港工事完成迄ハ清津港カ最大ナル中斷能力ヲ有スルモノトシ  
テ輸出入貨物ハ自然本港ニ向スコト、ナルヘシ。  
筆者ハ昨年十二月下旬及本月<sup>十一</sup>月上旬ノ二旬ニ亘リ清津、雄基ヲ親シク視察  
スル機會ヲ得シモノニシテ旅行中蒐集セル材料ニ基キ以下記述スルモノ  
ナリ。

備考 本記事中心ニ示セル數字ハ一般的ニ最新ナル統計及清津商工會議  
所、同地市役所並同地稅關ニ就キ得タル統計資料ニ依レリ。

沿 革

清津ハ一九〇四―五年ノ日露戦争當時ハ朝鮮ノ邊境ナル一寒漁村ニ過キサリシカ偶々此ノ港カ北鮮ニ出動中ノ日本軍需品陸揚地ニ利用セラレ之カ動機トナリテ本港ハ漸次發展ヲ示シテ來タレルモノナリ。之以來日本人<sup>朝鮮人</sup>移住シ來ル者多ク、清津ノ人口ハ次第ニ増加シ日本政府並朝鮮政府當局注意ノ對照トナリ將來ヲ矚目サル、ニ至リシモノナリ。

而シテ本港ハ一九〇八年三月三十一日國際貿易開港場トナレルカ之カ理由トシテ「*貿易、ウヰキキル*」著朝鮮經濟地理統計（一九二一年ウラジオ版）ニハ左ノ如ク記述シ居レリ。

清津灣開港事情ニ就テ述ヘンニ一九〇八年迄、咸鏡北道中部及北部向ケノ外國商品ハ元山（清津ヨリ二二三哩）及城津（清津南方約九〇哩）ニ陸揚シ更ニ同地ヨリ土地ノ戎克ニヨツテ目的地ニ送ラル、状態テ

4

アツタ。然ルニ城津ハ早クヨリ開港サレ居ルモ南北咸鏡道ノ境ヲ通スル險嶺タル摩天嶺更ニ其ノ東北部ニ續ク小長白山脈更ニ東方「*ミヂヤン山*」連山ニ終ル山脈ノ連鎖ニ依リ咸鏡北道中部及北部ト絶縁セラレテ居ルノテアル。

而シテ又咸鏡北道ヨリノ輸出品（穀物、家畜、皮革、木材）ハ同様前記諸山脈ニ適ラレテ城津ヘノ通路ナク、浦鹽經由日本及支那ヘ輸出セラレテ居タノテアル、斯ノ如キ不便ヲ除去スル爲城津ト豆滿江河口トノ間ニ外國貿易港トシテ清津カ開港サレタノテアル。

清津ハ初メ地方的意義ヲ有シ居タルカ一九一〇年日韓合併ト共ニ行政上重要ナ都市トナリ一九一四年三月、一四〇三四平方呎ノ地域カ都市用地ニ決定セラレ、ニ及ヒ漸次發達シテ今日ニ及ヒタルモノナリ。

6 清津ハ山岳海ニ迫リ商業地域若ハ築港ニ適當ナル平坦地ニ乏シク本都市



初期ノ開拓者ハ山麓ノ掘削、土壤運搬、小川ノ埋立等ニ莫大ナル努力ト資本ヲ費セリ期クテ市ハ六區ニ區分セラレ一九一〇年先ツ第一ニ海岸ノ埋立作業カ開始セラレ、一九一一年ニハ現在ノ商業地域トナレル一九四四三平方米ノ地所ノ埋立カ完成セラレタリ海岸埋立第二段工事ハ一九一一年八月ヨリ始マリ一九一三年三月ニ終リ其ノ結果更ニ一九八〇平方米ノ市街用地ヲ増シ、此處ニ現在ノ四本ノ中央通カ出來上リタリ、

又更ニ適當ナル商業地域建設ノ爲一九二二年第三次海岸埋立開始ノ必要ニ迫マラレ一九二三年ニ五二七一五平方米ノ水面ノ埋立ヲ完成セリ此ノ大部分ハ現在ノ海岸通ヲ爲シ居レリ第三回工事ノ完成ニ次イテ第四回海岸埋立計畫ノ實現ニ着手シタルカ本計畫モ亦完成シ此ノ埋立地ニハ海港設備カ行ハレタリ。

斯ノ如ク清津市ハ不撓ノ努力ト莫大ナル經費ヲ以テ海面ヲ埋立テ只管發達ノ一路ヲ辿リ來レリ。灣ノ東北岸ノ平地ハ既ニ都市建築物ニ幣ヒ盡サレ今後ノ市ノ發達ハ輸域河河畔ニ依ルコト、ナリ居レリ。清津灣ハ東西ヨリ此ノ河筋ニ向ツテ開ケ輸域河鐵橋上流地點ニ大ナル運河開鑿カ計畫サレ居レルカ之ニ依レハ河口ハ松坪ヨリ南方ニ移リ舊流ハ埋立テラレ都市トナル筈ナリ、本工事ハ一九三一年ヨリ既ニ開始サレテ居リ目下進行中ニシテ本年中ニ完成ノ豫定ナリ。之カ豫算二九八〇、〇〇〇圓本工事完成後ニ於ケル新運河ノ提防ヲ境界トシテ算定スレハ清津市ハ面積二三、二二〇、〇〇〇平方米（四百萬坪）ニ達スルコト、ナレリ。

#### 氣候

北鮮ノ氣候ハ寒暑ノ差甚シク大陸的性質ヲ帶ヒテ居レリ。雨期ハ七月



日	氣 壓			氣 溫 (攝氏)			風 力 (米) (1ヶ月平均)	降 雨 量
	最高	最低	平均	最高	最低	平均		
一月	六五二	四五二	五五一	一三	(一) 五	(一) 五	一三	一三
二月	六四四	四七五	五五八	一〇	(一) 一	(一) 六	一〇	一〇
三月	六〇〇	五三一	五〇九	一三	(一) 八	〇七	一五	〇八
四月	五四四	四〇二	四六四	一六	(一) 一	四六	一五	一六
五月	五五七	三九〇	四六〇	二一	二	六〇	一五	一八
六月	五六九	三八一	四四九	二五	三	六〇	一五	一八
七月	五六一	三八五	四五四	二五	一	六四	一五	一八
八月	五六八	二八三	四四三	二八	一	六五	一五	一八
九月	五五四	三六〇	四八五	二一	一	六八	一五	一八
十月	六二七	四三二	五二五	一八	〇	六四	一五	一八
十一月	六六六	四三三	五四八	一六	(一) 二	六三	一五	一八
十二月	六三六	四三六	五五三	一〇	(一) 三	六三	一五	一八

一九三一年度清津地方氣候統計

下句ヨリ八月下旬ニ亘リ又四月未ヨリ七月下旬ノ間ニ於テハ屢々農務ヲ見氣温ハ低下シ空氣ノ濕度甚タ大ナリ。河床ノ凍結ハ普通十二月上旬ニ始リ二月未ニ解氷シ降雪期ハ十一月下旬ヨリ二月下旬迄ナリ、然シ降雪量ハ極少量テ積雪ハ〇、三米ヲ超ユルコト稀ナリ、清津ハ不凍港ナリ然シ前記「エヌヴェネル」氏著書ニハ一九一〇年一月三十日附京城日報所載記事ニ依ルトシテ一九一〇年一月二十四日五兩日ハ酷寒ノ爲港内全ク凍結セリト記載シ居レリ、一年ヲ通シ概シテ決晴ノ日多ク野外作業ノ困難ヲ感シ又ハ不可能ナリト謂フ如キ日ハ非常ニ稀ナリ。清津地方氣候ノ特性ヲ示ス爲左記ニ統計表ヲ掲クヘシ。

海津カ港トシテ發見サレテヨリノ人口ノ増加ハ次表ノ如クナリ。

住民

備考 一秒十米以上ノ速力アルモノヲ強風トセリ

一九三一年降雪降霜		一九三一年度氣溫(攝氏)	
第一回	最終	最高	最低
十一月十二日	四月十二日	八月十六日	一月十日
四月十二日	十一月十五日	四月十六日	三月十日

一九三一年度清津地方氣候統計

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
霜	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雪	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雨	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
霧	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
快晴	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
晴	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
曇	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
強風	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

職業	日本人		朝鮮人		外國人		總計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
官公會社勤務及自由職業	510	2,176	798	3,939			1,308	6,115
農林牧畜業	5	24	259	1,309	6	25	270	1,633
商業運輸業	710	2,923	1,376	7,038	20	54	2,106	10,015
工業	2,100	7,423	5,526	20,627	4	10	7,630	34,060
漁業	289	897	485	2,444			774	3,341
其他	532	1,744	1,883	7,100	3	11	2,418	11,959
無職	97	435	321	1,440	9	35	427	2,005
合計	2,522	9,022	5,478	24,927	33	103	8,133	34,846

トナリ月商工會議所「ハ四萬五千ト發表シ居レリ  
然レ之ハ幾分誇大視シテキレ傾向アリ  
職業別人口ヲ示セハ次ノ如シ  
(一九三一年職業別清津人口數)

一九三二年度ニ於ケル清津ノ人口ハ警察當局調査ニヨレハ更ニ約四千人ヲ増加シ居レリトノコトナルヲ以テ目下清津ノ人口ハ約三萬九千ト

年度	日本人		朝鮮人		外國人		其他		總計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
一九三二	2,321	9,016	5,478	24,891	33	103	1,181	5,043	8,983	34,846
一九三〇	2,108	8,355	5,206	24,003	25	81	1,197	5,333	8,536	33,728
一九二六	1,706	6,447	4,015	19,979	28	108	1,560	6,101	7,153	28,949
一九二二	1,021	4,651	1,589	8,793	60	257	1,636	7,761	3,274	12,745
一九一六	1,042	3,385	1,059	4,222	38	152	1,140	4,774	2,751	11,771
一九一〇	633	2,019	271	1,576	14	51	1	97	401	3,667
一九〇九	299	989	266	968	13	53	1	97	219	2,191
一九〇八	271	745	244	824	8	28	1	57	173	1,738

清津人口統計

清津港ノ位置

清津ハ東經一二九度四二分北緯四一度四三分ノ地點ニ位シ海路敦賀迄四六七哩、新潟四九〇哩、函館五二〇哩、元山二〇五哩、浦鹽一三八哩ナリ工事中ノ鐵道開通後、滿鮮幹線ニヨルトキハ北鮮諸港中清津ハ最モ新京ニ近クナリ、即チ新京清津間ハ六五九。六籽ニシテ新京雄基間ハ六七四。五籽又羅津迄ハ六八九。八籽ナリ、清津ハ其ノ東部ハ日本海ニ面シ、灣ハ南方ニ向ヘル高稜半島ハ山脈ヲナシ海ニ突進シ東北ハ雙蒸山及天馬山ニヨリテ圍マル、西北ハ輪城河ノ大河畔ニ依テ開々居レリ、灣岸地帯ハ平地ニ乏シク將來ニ於テ港ハ輪城河ノ平原ニ向ツテ發展スルヨリ外ナシ、尙輪城河ハ前記ノ如ク現在ヨリモ遙カニ南方ニ移サルル筈ナリ

14.

清津沖ハ山ニヨリテ北風及東北風ヨリ具合ヨク遮ラレ居レリ（繫船場横ニ平地設置ノタメノ天馬山破壊案カ否決サレタノハ之カ爲ナリ）南方ニハ打展ケテ居リ自然上ノ大缺陷ヲナシ居レリ（南風及東南風ハ灣内ニ強波ヲ起スモノナリ）之ヲ或程度迄緩和スル爲防波堤敷設ノ必要ニ迫ラレタルモノナリ、

半島ノ未端小松カラ輪城河右岸ニ連ル直線ニヨリテ外海カラ限ラレタ部分カ清津港トサレテキルカ此ノ港内面積ハ二、八七二、〇〇〇平方籽ニシテ水深ハ充分ニ深ク一九〇五年ニハ四〇隻以上ノ日本軍艦カ樂ニ碇泊シ得タ。海岸ヲ去ル二〇〇米ノ點ニ於テハ其ノ深サ既ニ十尋ニ達シ潮ノ干満ノ差ハ〇。六米以下ニシテ小松半島ハ恰好ノ自然的東風遮斷物ヲナシ又天馬山ハ北風ヲ遮ツテキル等港トシテ有利ノ地形ヲナシ港内荷役作業ノ不可能トナルカ如キ場合ハ殆ト無キモノナリ

海港設備

此ノ港ニ初メテ海港設備ノ施サレタノハ一九〇七年ニシテ舊朝鮮政府ノ

手ニヨリ三九、六六〇平方米ノ解碇泊場（工費約四二萬圓）及税關詰  
 所カ建設工事ハ著シク進捗セラレタリ。即チ九六、一〇九平方米ノ海  
 面ノ埋立カ行ハレ又延長一、〇〇米ニ亘リ海岸石垣ノ裝備カ完成セラ  
 レタリ第四次計畫ニ基ツキ一九二四年度更ニ一八、一七七平方米カ埋  
 立ラレ此處ニ倉庫及市街家屋カ建設サレタリ。

又石炭及木材類ヲ列車ヨリ直接汽船ニ積替ユル爲同年停車場構内ノ海  
 面ニ長サ二〇〇米、幅六。〇六米ノ埠頭カ建設サレ、一九二二年カラ  
 五箇年計畫テ豫算二五〇萬圓ヲ以テ長サ四五二。五米ノ防波堤構築工  
 事カ開始セラレタリ。然ルニ其ノ後一九二三年東京地方ニ大震災起リ  
 日本政府ハ財政難ニ陥リ一九二四年ヨリ本工事ノ作業中止ノ已ムナキ  
 ニ至レリ。然ルニ清津ノ貨物出廻増加ハ長ク本築港工事ヲ其ノ儘中止  
 セシメ置クコトヲ許サス一九二六年前豫算殘二〇〇萬圓ニ新規四四〇

萬圓ヲ追加シ一九三三年迄八箇年計畫ヲ以テ本工事ノ完成ニ着手シタ  
 モノナリ、

此ノ一大工事ノ計畫ハ左記ノ如シ、

防波堤	六〇〇米
埋立	二一九、〇〇〇立方米ノ
作業	面積一四〇、〇〇〇平方米
	土壞
繫船	水深七六米ノモノ三六〇米
岸壁	八五米ノモノ五五五米
排水設備	一二五米
陸備	倉庫 五、四七〇平方米
	荷卸場 八六米
	海岸補強工事 四三五米
	税關事務所 四〇〇平方米

鐵道線路

三。五軒

道 路

二四、八〇〇平方米

俊漉作業

俊漉土嚢量 一四八、〇〇〇立方米

俊漉海底面積 五八、八〇〇平方米

ニシテ一九三二年末迄ニ六〇〇米ノ防波堤延長工事ノ完成ヲ見、現在ニテハ防波堤ハ水面上ノ高サ一メートルカ本年中ニハ二米迄高メラレル筈ナリ。本防波堤ノ工事費ハ二百萬圓、一九三二年中ニ埋立工事及繋船岸壁構築ハ大體ニ於テ終了ヲ告ケ、此ノ八年計畫モ殆ト既ニ完成シ居レリ。此ノ結果防波堤内ノ面積ハ三一萬平方米トナリ、天馬山附近繋船岸壁ノ深サハ近々九。五米迄掘下ケルコトニナリ居レルカ目下ノトコロハ八年計畫ニヨリ従前通入。二米迄ノ掘下作業ヲ續ケ居レリ。之ニ依レハ一方ニ六。〇〇〇噸他方ニ三。〇〇〇噸ノ汽船ヲ繋船シ得ルカ

尙將來必要ニ應ジテハ更ニ海底ノ俊漉ニヨリ大型船舶ノ繋船可能ナル程度ニ迄水深ハ深メラレルヘシ。實通附近棧橋ニ於ケル水深ハ七。六米ニシテ同時ニ三、〇〇〇噸級ノ汽船カ三隻迄碇泊シ得ル筈ナリ。港底俊漉ノ結果實通附近ニ於テハ干潮時ニ於テ水面下七。六米ニ達シ又天馬山附近ニ於テハ同様干潮時ニ於テ八。二米ニ達スルニ至レリ。

既埋立地ハ天馬山附近ニテハ四四、〇〇〇平方米ニ及ヒ實通附近ニテハ三八、〇〇〇平方米ニ達シテ居レリ第一期建設八年計畫完成後ハ六、〇〇〇噸級ノ汽船三隻或ハ三、〇〇〇噸級ノ汽船四隻ヲ同時ニ繋船シ得ル筈ニテ貨物吞吐能力ハ一箇年最低一三〇萬噸最高一五〇萬噸位トナルヘシ然ルニ近キ滿鮮直通幹線ノ開通ヲ考慮ニ入ルレハ清津港ノ貨物中繼能力ハ前記範圍ノ設備ニテハ不足トサレ、第二次築港計畫カ計畫サレ居レルカ之カ御一期作業トシテ前記セル如ク豫算一九八萬圓ヲ以テ輪城河床ノ移

轉カ計畫セラレ居レリ。本工事ハ既ニ進行中ニシテ本年申ニ完成ノ豫定ナリ。之ニ依ツテ今後ノ築港進展ニ對シ輪城河畔ニ廣大ナル地面ヲ生ミ出スコト、ナルモノナリ。昨年十二月清津港ノ築港作業ヲ視察セル滿鐵ノ責任アルニ技術家ノ談トシテ一九三二年十二月二十三日四日附同地新聞北鮮日報ハ左ノ如キ記事ヲ掲ケ居レリ。

清津港ノ貨物吞吐能力ヲ年一三〇萬噸乃至一五〇萬噸トセル一般ノ評價ハ甚タ過少ニシテ各繫船岸壁ノ設備完成後ハ特ニ努力セストモ年二〇〇萬噸ノ貨物ヲ吞吐シ得ヘシ

港内陸上諸設備ノ未完成並稅關其ノ他公共機關ノ設備不充分ナルタメ新設繫船岸壁ノ利用ハ目下ノトコロ正式許可ヲ與ヘサルカ特ニ必要ニ應シテハ特別條件ノ下ニノミ利用ヲ許可シ居レリ。新繫船岸壁ニハ昨年十二月枋木商會社所有知多丸(三、六〇〇噸)カ初メテ繫船セラ

レ第二回目ニハ同シク同船カ一月六日朝三菱發送ノ橋桁三〇〇噸ヲ積ミ繫船セリ。本船ハ第一回目ニハ投錨カラ岸壁繫船迄約三十分ヲ要シタカ第二回目ニハ僅カニ十二分ニシテ之ヲ完了セリ。

清津稅關詰所ハ一九〇八年ノ開設ニシテ目下清津稅關ノ管轄ニ屬スル港内設備ハ左記如ク

海岸補強工事	七一八米
浮標	一箇
陸上事務所建物	二六一、五平方米
見張所	一五〇
検査人詰所	一〇
檢閱所	七九
稅關倉庫(二)	一六八、五

G-0037

0385



又港内ニ於ケル各置場ハ次ノ如シ

汽船	小蒸汽船	一	日本式シヤンパン
埠頭		六〇〇米	
起重機		一	
野外保管場		一四、二四三、七五平方米	
税關工場		一三二、二、	
驛税關詰所(建物二)		一〇六、五、	
物置	(六)	二二三、一、	

鐵道所屬置場	三五七平方米
國際通運會社置場	八四三平方米
清津倉庫會社置場	五〇二、
北鮮運輸會社置場	四二〇、

檢閱品保管庫	一、〇五八、
軍部所屬置場	一六六六、
各個人所屬置場	二、一五八、
合計	七、〇〇四平方米

目下清津港内ニ作業<sup>区</sup>ル荷役人夫ハ五〇〇人ニシテ殆ト朝鮮人ナリ。清津燈臺ハ小松半島ノ未端ニ在リ本燈臺ノ建設ハ一九〇八年七月ニ開始サレ同九月ニ一部ノ完成ヲ見タリ。初メ此ノ燈臺ハ第六級燈臺トシテ計畫サレタモノナルカ將來航路ノ賑盛トナルヲ見越シ第三級ト爲スコトトシ第三級トシテノ工事カ續ケラレ居レリ。現在ノ燈臺ハ一九一〇年ノ創立ニシテ此ノ時以來燈火竝サイレン信號ノ活動ヲ不斷ニ續ケ居レリ。位置ハ高臺ニシテ高サ海拔四三、三米面積一、一二八平方米ナリ。本燈臺備付ノ濃霧ニ對スル信號設備ハ英國製ニシテ石油原動機ニヨツテ活動

心空氣押上ホシフ並時計仕掛機械ノ廻轉ニヨツテ十三秒置キニ三秒間丈  
ケ汽笛ヲ鳴ラスサイレンシカラ成リ居レリ。燈臺ノ照明燈ハ赤熱ガスニヨ  
ツテ點火シ其ノ光ハ二十海里ノ遠キニ及ヒ燭光四四、二五六燭每六秒置  
キニ一閃シ燈光ノ中心點ハ水面上五四、五米ノ箇所ナリ、清津無線電信  
局ノ天馬山ニアリ其ノ位置ハ東經一二九度四八分五四二、北緯四一度四  
六分五一四ナリ、通信範圍ハ全日本海海面、全朝鮮及日本内地各無電局  
ナリ。

清津ハ附近沿岸ニ多數ノ豐富ナル魚區ヲ有シ威鏡北道ニ於ケル漁業ノ中  
心地ナリ。清津ニ於ケル漁場ハ小松半島ノ東岸ニシテ一九一五年此處ニ  
長サ一三二米ノ防波堤カ構築サレタ（費用六三、〇〇〇圓）カ弱イ浪ニ  
モ抵抗カ少ナク逐ニ大風ノ爲破壊サレタルヲ以テ一九二八年長サ一二七  
米ニ亘リ修理ヲ施シ費用五萬圓ヲ要セリ。此ノ防波設備ヲ爲セリ結果漁

24

港ノ有效水面ハ一一、九八七平方米トナレリ。漁業ノ發達ニ伴ヒ現在ノ  
漁港ニテハ不足ヲ告ケキルヲ以テ第二次築港計畫ニヨリ之ヲ擴張スルコ  
ト、セリ又現在ノ輸城河河口地方ノ一部ヲ漁港トスル提案モアリ。

#### 清津港貨物取扱高及商況

清津港ハ不斷ノ進歩發達ヲ爲シツ、アリ。一九二九年ヨリ三一年迄ノ清  
津港出入船舶數ヲ示セハ次表ノ如シ。

國内外 輸出入	國内外 輸出入	年度	
		一九三一年	一九三〇年
四三一 八六二 〇四六 五二五	一一 五七五 一七四 九二七 五八四	一九三一年	一九三〇年
八五二 六七四 四九五 八四四 八三五	一五 四一五 一八四 三九八 七八九	一九三〇年	一九二九年
七二 〇一 三一 一六 〇七	一五 九〇 一七 四七 八	一九二九年	

税関統計ニ依ル本港貨物取扱数量ハ左記ノ如シ(單位噸)

年度	一九二九	一九三〇	一九三一	年度
以下噸	四四	六九	七二	以下噸
以上噸	一			以上噸
以上噸	六			以上噸
以上噸	九			以上噸
以上噸	一	二		以上噸
以上噸	三五九	四四一	九八	以上噸
以上噸	八八	一七一	二五八	以上噸
以上噸		七	三	以上噸
以上噸			二	以上噸
以上噸			二	以上噸
合計	六・八	六九	六四	合計

次ニ一九二九年ヨリ一九三一年迄三ヶ年間ニ於テ青津港ニ入港セル船舶数ヲ噸數別ニ見レバ左ノ如シ

合計	我對 外貿易	帆 外 國 貿 易	帆 國 内 貿 易	汽 國 内 貿 易	汽 外 國 貿 易	船種	
						噸數	隻數
六二九 三〇三	七一〇	一七四	四九七	三六〇	二一	着	一九二九年
六二六 四七二	六九二	一〇	三四二	一一五〇	一一	發	一九二九年
七二五 〇七八	七五二	一五	一	八〇五	二五	着	一九三〇年
七三三 七四一	七三二	一五	二	三三五	五	發	一九三〇年
六四五 三七一	六九一	一六	一	一四五	八	着	一九三一年
六三三 五一四	六九一	一四	二	一〇六九	六	發	一九三一年

G-0037

0388



東京―雄基	朝鮮郵船 汽船會社	明治丸	三二〇五噸
清津―敦賀 (各地寄港)	朝鮮郵船 汽船會社	長白山丸 釜山丸	三一三一噸 一六一五噸

前記ノ外栃木商事、松岡汽船會社其ノ他汽船會社ノ各汽船カ清津日本各地間ニ不定期航路ヲ營ミ居レリ、此ノ外清津ト附近各港トノ交通ハ小汽船及ボートニヨリテ行ハル。

本年ヤニハ清津發着貨物ノ海路輸送ノタメ川崎汽船及中村組カ本航路ニ進出ヲ決定セル外又山下汽船及澤山汽船モ進出スル模様ナリ。併シ俄ニ本年度滿洲特產物輸出ノ大量殺到ハ期待出來得サル爲新ニ進出セル船會社ハ目下ノトコロ日本發清津向各種貨物ノ搬送ニ從事シ居ルモノ、如シ。

本年四月以後ハ遞信省ノ委任ヲ受ケタル北日本汽船會社ノ參加ニ

依リ清津―敦賀間ノ航海ハ一層賑カトナルヘシ。即チ本航路ニハ同汽船會社所屬汽船四隻(何レモ四、〇〇〇噸)カ就航シ一箇月十二回往復スル筈ナリ。本區間ノ航行時間ハ三六時間ニシテ浦鹽斯德々敦賀ノ直航ハ多分廢止サレ清津―敦賀間ノ浦鹽寄港航路ニ制限サル、筈ナリ。國際通運汽船清津支店長カ筆者トノ會談中語リタル所ニ依レハ一九三四年ヨリ清津―歐洲間ノ航路開始ノ意圖ヲ有ストノコトナリ。

清津ノ商業上ノ勢力範圍及其ノ脊後地ハ過去及現在共威鏡北道北部全體ト延吉道地方ナリ。

清津港開港當時ヨリ一九三一年迄ノ貿易高ヲ示セバ左記ニ表ノ如シ



清津港中繼貿易額 (單位圓)

年 度	延吉道輸出	延吉道輸入	合 計
一九一〇	三七〇〇九	五三九六四〇	五四三三三九
一九一一	二二三八	六〇六九九〇	六〇九二二八
一九一二	一五〇一二	九五六二五四	九六六三六六
一九一三	三七〇五九	九八九九九九	一〇二七〇五八
一九一四	二五八六二	七二三四九九	七四九三六一
一九一五	一六九七八	四九六二八九	五一三二六七
一九一六	九六四三八	八二五九九〇	九二二四一八
一九一七	二一五八四	一四八五五〇	一七〇一〇四
一九一八	一〇四〇〇	一四六六六	一五〇六六
一九一九	一〇一四九	一四一四〇	一四二八九
一九二〇	一八一九九	一四一三三	一四一三三
一九二一	五七七八九	一八〇一四	一七五九三
一九二二	一〇二八二	一四一三三	一五二一五

又貿易總額ハ

- 一九一八年 三三二五萬二千圓
- 一九二九年 三二六八萬四千圓
- 一九三〇年 三二一〇萬九千圓
- 一九三一年 三〇〇四萬四千圓

一九二三	三七四六一二四	二六四三六七六	五三八九八〇〇
一九二四	一八八六五五九	三二〇四五五一	四〇九一一一〇
一九二五	一七七七三三三	一八六五五四	三六四二八八
一九二六	四七九〇七二	四一七〇八三	八九六一五五
一九二七	六六八〇四四	三〇九七〇五	九七七七五〇
一九二八	六四五九二〇〇	一七九〇六六	八七二九八六
一九二九	三七〇六八〇八	一三二六三〇〇	五〇三三一〇八
一九三〇	三六一六三九四	一四四〇〇一	五〇五六四〇五
一九三一	五〇七八七一	一〇六〇五五	六一三九二二六



ニシテ一九三二年度ノ分ハ新聞紙ノ報導ニヨレハ四六〇〇萬圓ニ達セリト云ヒ開港當時一九〇八年ニ比シテ約百倍餘ノ増加ヲ示シ居レリ、各年ヲ通シテ輸出ヨリモ輸入カ遙カニ優勢ナルカ之ハ軍部用（羅南ニ師團司令部アリ）ノ各種製作品及食料品竝一般向各種材料及港灣鐵道附屬品輸入ノ爲ナリ。

若シ右ノ如キ純商品ノ性質ヲ帶ヒサルモノヲ除外スレハ大體ニ於テ輸出入ハ平均シ居レリ。一九二九年―三一年三箇年ノ取扱貨物ヲ發着地別、品種別、金額別ニ統計ヲ示セハ次ノ如シ。

品名	産地	単位	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
			数量	金額	数量	金額	数量	金額
品名	産地	単位	数量	金額	数量	金額	数量	金額
米	南洋	石	一〇八、四八九	七、六五二	一三九、一七〇	六、九二七	二二〇、四六六	七、九七一
海産物	南洋	斤	一五、六二八	一、二四五	一〇、三九二	一、五八八	一、七〇六	一、七〇六
絹織物	延吉道	斤	一三、三六三	八、四三九	四、七〇五	四〇、六六九	四、三三八	三、六六七
綿織物	延吉道	斤	一三、三六三	八、四三九	四、七〇五	四〇、六六九	四、三三八	三、六六七
羊毛	延吉道	斤	一三、三六三	八、四三九	四、七〇五	四〇、六六九	四、三三八	三、六六七
地下足袋	延吉道	足	一、二一〇	六、五六三	二、七六〇	二、四八五	一、九六〇	一、九六〇
セメント	延吉道	一〇〇斤	一、〇〇八	一、四二四	一、〇〇八	一、四二四	一、〇〇八	一、四二四
鉄	延吉道	斤	一、九四八	二、〇一〇	一、九四八	二、〇一〇	一、九四八	二、〇一〇
木材	南洋	立方尺	—	—	—	—	—	—
其ノ他	南洋	—	—	—	—	—	—	—
合計			一〇四、三七一	一四、四六四	一四四、六五四	一四、四六四	二二四、〇六一	二二四、〇六一

外國發輸入主要貨物数量及同金額 (圓)

外國向輸出主要貨物数量及金額 (圓)

品名	産地	単位	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
			数量	金額	数量	金額	数量	金額
品名	産地	単位	数量	金額	数量	金額	数量	金額
米	南洋	石	一〇八、四八九	七、六五二	一三九、一七〇	六、九二七	二二〇、四六六	七、九七一
海産物	南洋	斤	一五、六二八	一、二四五	一〇、三九二	一、五八八	一、七〇六	一、七〇六
絹織物	延吉道	斤	一三、三六三	八、四三九	四、七〇五	四〇、六六九	四、三三八	三、六六七
綿織物	延吉道	斤	一三、三六三	八、四三九	四、七〇五	四〇、六六九	四、三三八	三、六六七
羊毛	延吉道	斤	一三、三六三	八、四三九	四、七〇五	四〇、六六九	四、三三八	三、六六七
地下足袋	延吉道	足	一、二一〇	六、五六三	二、七六〇	二、四八五	一、九六〇	一、九六〇
セメント	延吉道	一〇〇斤	一、〇〇八	一、四二四	一、〇〇八	一、四二四	一、〇〇八	一、四二四
鉄	延吉道	斤	一、九四八	二、〇一〇	一、九四八	二、〇一〇	一、九四八	二、〇一〇
木材	南洋	立方尺	—	—	—	—	—	—
其ノ他	南洋	—	—	—	—	—	—	—
合計			一〇四、三七一	一四、四六四	一四四、六五四	一四、四六四	二二四、〇六一	二二四、〇六一

G-0037

0394

合計	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—

日本國內何輸出主要貨物数量及同金額 (圖)

品名	單位	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
米	石	二,四九一	三,二六四	—	—	—	—
正油大豆	〃	二,一三〇,〇三八	二,六二四,三七五	—	—	—	—
小豆	〃	六,〇〇五	四九,七四三	—	—	—	—
茶葉(成ツ)	〃	二四,六三三	一七,〇〇〇	—	—	—	—
茶葉(成ツ)	〃	四九,八七九	二八,一七五	—	—	—	—
海産物	斤	四九,八七九	二八,一七五	—	—	—	—
毛皮	〃	九三,七七七	二九,一四三	—	—	—	—
魚油	〃	一八,四五五,三六六	六九,八八二	—	—	—	—
石炭	噸	八四,八	九三,二六三	—	—	—	—
金銀	一〇〇斤	三,三一〇	四〇,五八	—	—	—	—
木材	江方石	四,五七〇,三九	三〇,三五〇	—	—	—	—

品名	單位	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
水炭	一〇〇斤	三五〇,五	五八,三〇七	—	—	—	—
肥料	一〇〇斤	一五五,六五	六五,四三三	—	—	—	—
其他	〃	—	—	—	—	—	—
計	〃	—	—	—	—	—	—

日本國內何リノ輸入主要貨物数量及同金額 (圖)

品名	單位	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
米	一〇〇斤	六,二〇四	五五,六〇七	八,七三三	九四,一六七	一〇,三三三	一三,二六六
小麦粉	斤	四,四五三,四四六	三,五三三,三七	四,六五四,四七	四,四〇〇,〇四	六,七三四,八四八	七,四一八,二六
砂糖	〃	九,九七五,四五	二,五九,九一四	一,一四四,六六六	一,三三三,四〇七	一,三三〇,一〇二	一,五四,八四八
清酒	〃	六九,七九	六九,八二七	七,七八二	九〇,〇七九	八,四六五	九,八六二
ビール	〃	二,三五五	四〇,二二三	一,六四二	七,六四六	一,八六,六六六	七,六三六
揮発油	〃	八,五八〇	四七,〇三〇	七,七〇五	四六,四八五	三,三〇〇	三〇,〇四〇

G-0037

0395





合計	二四八五九六六一	五〇二八七一	五〇二六五五三	二二二〇六八九四	五五八八四九九〇	三〇〇六八〇八
----	----------	--------	---------	----------	----------	---------

日本領土外南洋諸島經由延吉道着貨物

品名	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
	数量(斤)	金額(圓)	数量(斤)	金額(圓)	数量(斤)	金額(圓)
面粉	四七五八六五	二九七四二五	四四七六〇三	元八一五五	八七二二六三	九三三七二五
砂糖	一二四、三八三	一六一、〇六八	一、八六九六三	三三三九五	一、五四〇二七	二八一、六〇〇
啤酒	一、三六〇	四〇〇	二、一九五〇	七四一〇	四、三三五	一五、二一一
其他酒	一三、四八〇	二、一五二	九、九三四	二、一九三	一〇、九六三	一四七二一
食料品	一一、四〇〇	七九一	六、六四七	六、〇四七	四、一六三	四、三三〇
石油	一一、四〇〇	七九一	六、六四七	六、〇四七	四、一六三	四、三三〇
藥品染料	七、七五〇	二八二〇	三、五五〇	八一三	三、三四〇	一四八〇
綿絲	三、八三〇	二、八八五	七、〇一〇	四七六〇	七、三四四	六、一八八
毛織物	八一〇	一、五七〇	六、六五七	一、五〇八	三、一六三	一、五七七
衣服類	一八、三三七	三、七二五	八、五七五	一、五三三	一〇、九一五	一、六六〇
麥類	一七、六六八	一、三三四八	七、四六五	三、六〇九	二、八二六九二	二九、〇一五
雜貨類	一〇、四九六	三、二二七	九、三六三	一、八〇六	一、二〇三一	二八、六七

品名	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
	数量(斤)	金額(圓)	数量(斤)	金額(圓)	数量(斤)	金額(圓)
金銀及同製品	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
機械	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
陶器	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
其他	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇
合計	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇	一、五七〇

南洋諸島經由延吉道何外國貨物

品名	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
	数量(斤)	金額(圓)	数量(斤)	金額(圓)	数量(斤)	金額(圓)
飲食物	五、五八九	三、九一五	六、九〇二	四、二二六	二、五二五	二、五二五
雜貨類	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇
其他	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇
合計	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇

G-0037

0397

清津港經由延吉道向中國貨物

品名	一九三一年		一九三〇年		一九二九年	
	數量(斤)	金額(圓)	數量(斤)	金額(圓)	數量(斤)	金額(圓)
鹽	六〇八八八一	三七三九八五	—	—	—	—
飲食物	一〇五二	九二五	四二	一一〇	—	—
煙草	—	—	七五三〇	七〇七五	三八三一一	一四八八五
其他	二五六九	二二四〇	九七八	一五三六	三八二五	一五〇〇
合計	一〇一五三二	三九七一八	一六六二四	一八三一	三八三一一	一五〇〇

41

清津港經由輸出品ノ主ナルモノハ大豆(延吉道産)魚油、魚類、脂肪性肥料(清津附近産)及木材類ナリ。輸入品中第一位ヲ占ムルモノハ綿織物ニシテ次位カ飲食物、魚業用具、各種建築用品等ナリ。輸入品ノ大部分ハ威鏡北道住民ニ供サレテ居リ大體ニ於テ清津港ハ一九三二年迄ヲ見ルニ延吉道及威鏡北道ヲ背後トスル年四〇萬疋以下ノ貨物取扱ヲナス港ト謂フコトヲ得ルヘシ

結論

來ル八月ニハ滿鮮直通幹線開通シテ雄基、羅津、清津ニ通シ北鮮沿岸ニ於ケル輸送經濟統制ハ複雑化スヘク一方前記ノ如キ年一五〇萬疋ノ貨物取扱ノ可能性ヲ與ヘル清津港ノ築港工事ノ完成ト相俟ツテ清津港ノ意義ハ愈重大化シ從來ノ單ナル威鏡北道地方ヲ背後地トセリ清津港ハ一躍滿洲ヲ背後地トスル港トナレリ。

昨年未筆者カ清津商工會議所書記長室氏ト會談セル際同氏カ語レルトコロニ依レハ次ノ如シ。

- 42
- (イ) 北鮮及滿洲ハ地理的ニ又歴史的ニ相互ニ連繫ヲ有シテ居リ即チ嘗テ東部滿洲ニ住セン民族ハ常ニ北鮮沿岸ヲ自己支配下ニ有シ居レ
  - (ロ) 清津港ノ運命ハ他ノ北鮮諸港ト等シク滿洲ノ政治的經濟的狀況ト不可分ノ關係ニアリ。

ハ然シ今後對外關係特ニ日本市場ヨリノ滿洲同農業原料及其ノ他諸原料ノ輸入ハ衰退スヘク此ノ點ニ關シテハ清津港ノ發展ハ望ムベシ  
今後清津ハ北鮮ニ於ケル工業中心地トシテ發展スヘク之ニ適合セル諸條件ヲ具備シ居リ即チ威鏡北道ハ各種無限ノ資源ヲ包藏シ之ニ加フル港トシテノソノ狹隘ヲ感スル時輸城河ノ平原ヲ控ヘ陸地ニ充分發展ノ餘裕アリ各種工場建設ノ可能性ヲ有シ此點ニ關シテハ羅津ヨリモ優リ居レリ。  
清津ニ於テハ一九三二年ハ一般ニ景氣ハ上向状態ヲ通り居レリ、其ノ一例ヲ示セハ昨年中同地ニ於テハ土地價ハ平均從來ノ二倍ニ騰貴セリ。  
羅津港築港工事及敦圖鐵道ノ敷設工事ニ伴ヒ清津ハ相當期間異常ノ繁盛ヲ見ルヘシ即チ將來北鮮ノ大港羅津港カ完成スル迄ハ當分清津ハ吉林ノ朝鮮間幹線ノ出口トシテ大イニ活動スヘシ、然シソレモ茲三年乃至五年ノ間ニ限ラレ居レリ。

以上





